

小学校第4学年 道徳科学習指導案

児童数 30名

指導者 山本 由美

1 主題名

深く思い合う友達【友情、信頼】小学校 中B（9）

2 ねらいと教材

（1）ねらい

人間と友達になることができ寂しくはなくなったのに、青おにの住みかの前では紙を見て泣く赤おにの涙のわけを考えることを通して、互いに思い合い友情を深めようとする心情を育てる。

（2）教材名

「泣いた赤おに」（学研教育みらい「新・みんなのどうとく」4年）

3 主題設定の理由

（1）ねらいや指導内容についての教師の捉え方

本指導内容は、友達関係における基本とすべきことであり、友達との間に信頼と切磋琢磨の精神をもつことに関するものである。

友達は家族以外で特に深い関わりをもつ存在であり、友達関係は共に学んだり遊んだりすることを通して、互いに影響しあって構築されるものである。友達とよりよい関係を築くためには、友達と共に理解し合い、協力し、助け合い、信頼感や友情を育んでいく姿勢を大切にする必要がある。

友情が支えとなって生活ができること、さらには、友情は何もしなくて得られるものではなく、努力して育てなければならないことを自覚させることが必要である。

（2）児童のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

この段階の児童は、集団との関わりが活発になり、充実すると同時に、トラブルも多くなる時期である。また、学習活動の中で学び合い、助け合う場面も多くなり人間関係のさらなる充実も期待される時期である。特に仲の良い友達を得て、より深い関係を築いていく児童も多いであろう。ここで排他的にならずに、互いを信頼し合い、助け合える友達との関係を築くことが重要である。児童らは、3学年での『絵葉書と切手』の教材を通して、友達とはお互いを信じているからこそ言いくらいなことでも言える高め合うことができるものであるということを考えている。日常生活の中でも、クラスをよくするための声かけや励まし合う姿は多く見られる。個々の友達付き合いを見てみると、気の合うグループ内でのトラブルやグループ同士の行き違いなどを経験しながら友達とどう付き合い合えばよいかということ、体験を通して考えている段階であると考えられる。学校でのいろいろな活動の中で、一人一人の児童に、友達とはどういう人か、ということと同時に、自分は相手にとってどういう友達になりたいのかということも視野を広げて考えて欲しいと考える。

（3）使用する教材の特質や取り上げた意図及び具体的な活用方法

本教材は、赤おにと青おにの互いを思い合う深い友情などを考えることを通して、ねらいにせまるものである。人間と仲良くなりたい赤おにのために、青おにが芝居を打って人間と仲良くさせようとする。結果、赤おには人間と仲良くなれるが、青おには赤おにと人間の間を保たせるため、赤おにのもとを去る。村人と仲良くなることができ寂しくはなくなった赤おにが、青おにが自分のためを思って去ったことを知り泣く涙の理由をじっくりと考えさせる。さらに、考えを伝え合いながら価値についての考えを深め、「深く思い合う友情」のよさについて児童一人一人に味わわせた。その際、赤おに、青おにそれぞれの立場からの友情を考えることで、児童に「友達とはどういうものか」ということをいろいろな視点から考えさせ、友情の尊さについて自分との関わりの中で捉えさせたい。

4 学習指導過程

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
導 入	1 「友達」とはどんな存在か、ということを発表し合う。	○あなたにとって友達とはどんな人ですか。 ・気が合って、一緒に遊ぶ人。 ・何でも言い合える人。	・「友達」についての捉え方を共有し、内容項目への導入を図る。
展 開	2 教材を読んで考え、話し合う。 3 「友情のよさ」について考える。	○村人たちと仲良くなった赤おには、どんな気持ちだったでしょう。 ・作戦成功だ。 ・青おにのおかげで仲良くなれた。ありがとう。 ・これから、村人と仲良くしていこう。 ◎はり紙を2度も3度も読んでしくしくと涙を流して泣く赤おには、どんなことを考えていたでしょう。 ・青おにと会えなくなって寂しい。 ・青おにに、あやまりたい。 ・青おにに、戻ってきて欲しい。 ・ぼくは、自分のことしか考えていなかった。 ・青おににたよってばかりで、青おにのことを考えていなかった。 ◆青おにのどんな気持ちに気付いてなかったのか。 ◆離れてしまったら、もう友達ではないのか。 ○青おにと赤おにの関係から、友情とはどのようなものだと思いますか。 ・助け合うこと。 ・信頼し合うこと。 ・相手のことを考えること。 ・会えなくなったとしても、相手を大切に考えること。	・村人たちと仲良くなり、自分の願いがかなった時の赤おにの気持ちをおさえるようにする。 ・赤おにが、村人と友達になれたのに、『心がかり』になることがあることに気付いたわけや、はり紙を見て泣きながら考えていることを出させる中で、赤おにの後悔の気持ちや青おにの赤おにに対する思いやりなどに気付かせていくようにする。 ・赤おにと青おになってペアで役割演技し、それぞれの気持ちを考える。 ・考えを深めたり広めたりできるように、ペアで考えを伝え合う場を設定する。
終 末	4 今日の学習を通して、考えたことを振り返る。	○今日の学習を通して、友情について考えたことを書きましょう。 ・困ったときは助け合うことができている。 ・もっと相手のことを考えるようにしたい。 ・友達の気持ちを大切に考えたい。	・学習を通して自分が考えたことを、ノートに書かせるようにし、その後交流するようにする。 (ノート)

【評価】

・「互いに思い合う」友情のよさについて、考えている。 (発言・ノート)